
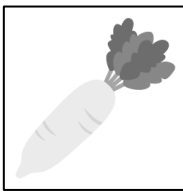


まきどき・植えどき・収穫どき  
**どきどき情報 8月**

～8月の野菜・花きの管理～

種まき	栽培のポイント												
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホウレンソウ</li> <li>・コマツナ</li> <li>・シュンギク</li> <li>・ハクサイ</li> <li>・ダイコン</li> <li>・カブ</li> </ul> <p>など</p>	<p>○ジャガイモ「デジマ」について</p>  <p>「デジマ」は秋作に向けた品種で、長崎で育成されたことからこの名前がつきました。肉じゃがや煮物はもちろん、粉吹きもやフライドポテトなどにも使えます。8月下旬～9月中旬に種イモをまいてください。生育が旺盛で、過繁茂になりやすいので、多肥栽培には注意してください。10坪あたりBB473で2kg程度が目安です。2回目の土寄せのときに追肥N30号を600g程度一緒に入るとよいでしょう。他には「ニシユタカ」などが秋作に向けています。</p> <p>○白くてまっすぐなダイコンを作るコツは？</p>  <p>「ダイコン十耕」という言葉があるほど、ダイコンは土づくりと深耕が重要な作物です。発芽して根がまっすぐに地中に伸びるときに先端の生長点が石や肥料に当たったり、乾燥などで痛むと異常根となってしまいます。降雨後の乾燥などで土の表面が固くしまったときは、軽く中耕して、根に空気を送ってやりましょう。間引きは本葉7～8枚までに3回ほど行い、1本仕立てにします。3回目のときに追肥をするときは畦の肩部にやり、このとき土寄せもしましょう。下に異常根となる原因とその対策についてまとめましたのでご参考にしてください。</p> <p>表：ダイコンの異常根の原因と対策（野菜栽培指標より）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>症状</th> <th>発生要因</th> <th>対策</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>根が曲がってしまう（曲根）</td> <td>作土が浅く、固い耕盤層ができている</td> <td>深耕のほか、適期に間引きを行い、良い株をそろえる</td> </tr> <tr> <td>根が分かれてしまう（岐根）</td> <td>①石や土塊による ②センチュウや害虫による食害 ③堆肥や化学肥料を塊状に施肥</td> <td>①深耕と砕土 ②センチュウ剤などの薬剤 ③均一な施肥</td> </tr> <tr> <td>根の表面にすじ状の褐変が水平方向に見える（横しま症）</td> <td>生育初期の土壤乾燥</td> <td>①深耕や堆肥の施用により、保水性を高める ②マルチの使用や播種前、間引き前後にしっかり灌水</td> </tr> </tbody> </table>	症状	発生要因	対策	根が曲がってしまう（曲根）	作土が浅く、固い耕盤層ができている	深耕のほか、適期に間引きを行い、良い株をそろえる	根が分かれてしまう（岐根）	①石や土塊による ②センチュウや害虫による食害 ③堆肥や化学肥料を塊状に施肥	①深耕と砕土 ②センチュウ剤などの薬剤 ③均一な施肥	根の表面にすじ状の褐変が水平方向に見える（横しま症）	生育初期の土壤乾燥	①深耕や堆肥の施用により、保水性を高める ②マルチの使用や播種前、間引き前後にしっかり灌水
症状	発生要因	対策											
根が曲がってしまう（曲根）	作土が浅く、固い耕盤層ができている	深耕のほか、適期に間引きを行い、良い株をそろえる											
根が分かれてしまう（岐根）	①石や土塊による ②センチュウや害虫による食害 ③堆肥や化学肥料を塊状に施肥	①深耕と砕土 ②センチュウ剤などの薬剤 ③均一な施肥											
根の表面にすじ状の褐変が水平方向に見える（横しま症）	生育初期の土壤乾燥	①深耕や堆肥の施用により、保水性を高める ②マルチの使用や播種前、間引き前後にしっかり灌水											
定植（植付け）													
<p>野菜</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イチゴ</li> <li>・トマト</li> <li>・キュウリ</li> <li>・ブロッコリー</li> <li>・キャベツ</li> <li>・レタス</li> </ul> <p>など</p>													
<p>花き</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キンギョソウ</li> </ul> <p>など</p>													

【リンドウ切り花後の管理】



リンドウは宿根性（冬には地上部が枯れてしまうが、春になると発芽して再び生育を始めるもの。他にはキクやアスパラガスなど。）の植物です。したがって、切り花後も来年以降の生育を考えて株養成をする必要があります。秋の残茎処理までの間、株を健全に保ち、越冬芽を充実させることが重要です。

☆こまめな灌水と排水対策

リンドウは乾燥に弱いので、この時期に灌水を怠ると極端に株が弱ります。こまめな灌水を心掛けましょう。また豪雨等の影響でほ場が滞水する恐れがある場合は速やかに明きょ等の排水対策を実施します。

☆病害虫対策

リンドウホソハマキ、アブラムシ類などは次年度の切り花に大きな影響を与えますので注意してください。



# 農業豆知識

## ○植物ホルモンとは？

ホルモンとは、簡単に言うと「体内で生産され、決まった器官において何らかの成長に影響を及ぼす物質」のことを言います。我々人間にも男性（女性）ホルモン等があるように、動物や虫、そして植物にもホルモンは存在し、その種類は様々です。植物ホルモンは、発芽や、開花、結実など植物の一生に深く関わっており、植物体にとってなくてはならないものです。

## ○植物ホルモンの種類

右の図にあるように、植物ホルモンは種類もその機能も様々です。機能としては、「植物が生長するのを助ける」ものと、「老化の方向に働く」ものの2つに大きく分かれます。代表的な植物ホルモンを説明していきたいと思います。

### ・オーキシン

茎や根、頂芽などの生長点に存在し、これらの伸長を促進します。植物体内に存在するオーキシンは不安定なため、化学合成したものを利用しています。代表的な合成オーキシンである 2-4-D は高濃度だと植物体の伸長を抑制したり、異常生長を引き起こすため、除草剤に用いられています。一方、低濃度であれば生長促進効果があるため、野菜でよく用いられる「トマトーン」は、オーキシンの効果を利用しています。

### ・ジベレリン

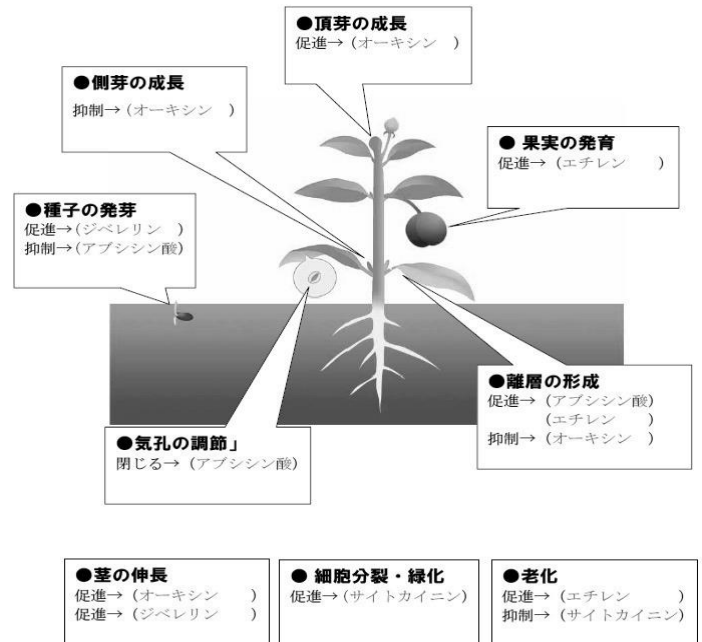
種子の発芽や茎・根の伸長、開花促進などの作用があります。イネのばか苗病から発見されたことから、ばか苗病菌の学名から「ジベレリン」と名付けられました。「ジベレリン」自体にも農薬登録（植調剤）があり、ブドウでは種無しブドウを作るために用いられています。ちなみにジベレリンは本来無色なため、薬剤としては色をつけて、処理をしたブドウが分かるようにしています。

### ・エチレン

ジベレリンやオーキシンとは異なり、「老化」の方向に作用する植物ホルモンです。植物の果実の熟成、落花、落葉を促進する効果があります。バナナやリンゴなどの果実にも存在し、エチレンを分泌するので、冷蔵庫にこれらの果実を入れてしまうと、エチレン作用により他の食材も老化していきます。また、このエチレンの作用を邪魔することで、農作物を長持ちさせることができます。合成エチレンの一つが「1-MCP」で「スマートフレッシュ処理」と言われ、海外ではリンゴの貯蔵技術として広く普及しています。日本でも広まってきているところです。

## ○植物成長調整剤

人間は様々な植物ホルモンを発見し、それぞれの活性を利用して、農業分野に役立てています。植物成長調整剤（略して植調剤ともいいます）は、植物の成長や発育をコントロールして、品質を高めたり、収量を上げたり、不良条件でも収量を安定させたり、生産上の労力を省いたりするために用いる薬剤です。例えばトマトーンやマイクロデナポン、フルメットなどがあります。植調剤の成分の中には、植物ホルモンが含まれていることが多いのです。



図：植物ホルモンは植物体の様々な器官で働いている（理科ねっとわーくより）

## あさつゆ連絡

電話番号：0268-41-1062

FAX：0268-41-1063

## 技術事項作成協力

上小農業改良普及センター（岡崎）

電話番号：0268-25-7156（直通） FAX：0268-23-2161